

沖縄を世界へ

沖縄県立与勝高等学校 3 年生

大城 和輝

皆さんは“沖縄”と聞くと、何をイメージしますか。私はまず、沖縄の豊かな自然をイメージします。他にも、青い空と海。首里城や勝連城址。うちなーぐちやゴーヤーチャンプルー。沖縄には、たくさんの魅力が詰まっています。中でも私は沖縄の豊かな自然が大好きで、それを大切にしたいと考えています。それらは、私にとって日常の一部で、何の変哲もない、いつもの風景と思っていました。しかし、日常にあった沖縄の風景が、とても貴重で特別な物なのだと、気付いたのはアメリカに留学した経験からでした。

私がお世話になったホストファミリーは、何度も何度も沖縄を訪れたことのある“沖縄ツウ”な家族でした。彼らはいつも私に、沖縄がどれだけ素晴らしい所なのか、沖縄で生まれ育ったことがどれだけラッキーなのか、口癖のように私に話をしてくれました。ビーチの白い砂浜、赤瓦の屋根、そして、首里城など城跡の石垣。それらは、私にとって何も特別ではなく、身近な日常にある物です。ところが、彼らにとって、それらはとても魅力的で特別な物に感じると言われました。私は彼らの話を聞くたびに、それが嬉しくなりました。同時に、沖縄から遠く離れた留学先で、初めて沖縄の魅力を知ったのです。そして、より一層沖縄が大好きになりました。

沖縄の魅力に気づいて以来、私は将来、沖縄の観光に従事し、沖縄をもっと活性化させ、世界の観光地に匹敵する観光地にしたいと考えるようになりました。ある日、彼らと沖縄の観光について話をしていた時に、夜の観光が沖縄には不足しているのではないかと指摘されました。確かに夜の観光といわれると、特別思い当たる物がありませんでした。アメリカでは夜の観光も盛んです。テレビでもよく目にするラスベガスの噴水ショーや、サンフランシスコやシアトルの夜景。時には、幻想的にライトアップされ、夜の街を演出していました。しかし、それらの観光を沖縄に当てはめて考えた時、果たしてそれがいいのかどうか疑問に思いました。私は人の手を加えることなく見せる、夜の観光は何があるか考え始めました。そこで、ほぼ同緯度に位置し、沖縄と同じように休暇のための観光で有名なハワイはどのような観光をしているのかを調べてみました。ハワイでは、昼はショッピングや海など、私たちが持つイメージ通りの、バカンスとしての観光が行われています。しかし夜は、星空保護区と呼ばれる、一定のエリアで、徹底的にライトの使用や使い方を制限し、満天の星空の下での天体観測を行っていることを知りました。そこから”何も特別なことはしない夜の観光”というコンセプトに出会いました。この“何も特別なことをしない夜の観光”というコン

セプトと、沖縄の貴重な自然を掛け合わせれば、沖縄にとってベストな夜の観光ができるのではないかと思い、私の地元、うるま市で考えてみました。

うるま市には、海中道路と呼ばれる、四つの離島を道路で結ぶ橋があります。その島々には、流星群など自然の天体ショーが起こるたびに、それを見るために県内各地から人が集まります。その理由は、基地からの明るさや外灯の明るさの影響をあまり受けることなく星を観察できることが一つにあります。また、数年前にその島々では、小中学校の統廃合があり、今では使われなくなった校舎があります。これらの学校の校庭やグラウンドを整備し、寝ながら観察できるようにし、校舎を休憩所や売店として開けば、新しく建物を建てる必要もありません。星を見るだけなので騒音やライトからの近隣住民への迷惑も少ないと思います。さらに、天体観測は冬でも盛んなので、沖縄観光の大きな課題であるオフシーズンの観光客減少にも対応することが可能だと思います。

ハワイの観光は、その土地の地理的条件や魅力を最大限に生かしていることに気が付きました。前で述べたように、市町村単位だけではなく、その中の地区単位にまで掘り下げることで、地域の魅力を発見し、それを観光の材料にすれば、観光の幅が広がると考えます。

私はこれまで、沖縄の観光はもう発展しきっており、これからの課題はどうPRしていくのかが重要だと思っていました。しかし、沖縄の豊かでユニークな自然や、足元の地元を観光に繋げることが可能だと知りました。伸び代がたくさんあり、これからも発展できると今は思っています。これからの社会の流れや、地域に密着した観光を研究して、日本の小さな島、沖縄を日本のみならず、世界中にアピールしていきたいです。

沖縄を世界へ。私は、これから大学に進学し、沖縄の自然を学び、沖縄の歴史や文化を学び、これからの沖縄観光について繋がる学びがしたいと考えています。

「沖縄を世界へ」私の挑戦が始まります。